

平成18年度 第3回北名古屋市男女共同参画審議会 結果概要

1 日時 平成19年3月27日(火) 午後2時～3時30分

2 会場 北名古屋市役所西庁舎 4階 大会議室2

3 出席者 17人

<委員10人(欠席5人)・市長・事務局:教育長以下4人・(株)ぎょうせい2人>

4 傍聴者 なし

5 議題等

(1) 会長、市長あいさつ

(2) 平成18年度北名古屋市の男女共同参画について

(3) 平成19年度男女共同参画事業について

(4) 北名古屋市男女の人権・社会参画アンケート調査結果報告について

(5) (仮称)北名古屋市男女共同参画プランに盛り込むべきテーマについて

(6) その他

6 会議概要

(1) 平成18年度北名古屋市の男女共同参画について

資料に基づき事務局説明

- ・相談委員実績がないことは啓発不足ではないか。
- ・女性の会の男女共同参画推進事業について伺う。
- ・今年度委託を受け、女性の会の中に男女共同参画委員会を設置し、寸劇をビデオ化した。次年度は、ビデオ啓発を通じアンケート作成・公表を検討している。
- ・おやじの会活動について、どのような事業を実施しているか。

<事務局>

父親が参加しやすい学校行事、収穫祭や万博素材を使用した廊下内壁の製作のほか、校区を廻って防災マップを作った学校もある。

- ・女性登用率は行政委員会が遅れている。
- ・女性の宛て職はどのような構成か。偏らずに公平な立場から、女性委員が選出され増えることを希望する。

<事務局>

構成内容まで調査していないので次回までに報告する。

(2) 平成19年度男女共同参画事業について

資料に基づき事務局説明

- ・20万円補助金事業の選考・採択方法および過去の実績

<事務局>

企画案を広報誌、ホームページで公募し、第三者を交えた選考委員による書類審査と選考会を経て採択している。今年度は、講演会、人形劇上演を実施された。

- ・旧師勝町で行われた男女共同参画職員研修の予定はあるか。実施を希望する。

<事務局>

プラン策定のため、各グループでの推進事業チェックを依頼する。実施は考えていない。

- ・19年度予算額が18年度と比較し150万円ほど増加しているが、要因は。

<事務局>

プラン策定に宛てる。

- ・補助金の増額や大きな講演会を実施するなど、PRに宛てていただきたい。

(3) 北名古屋市男女の人権・社会参画アンケート調査結果報告について

榊ぎょうせい総合研究所八木聖子研究員より概要説明

(4) (仮称)北名古屋市男女共同参画プランに盛り込むべきテーマについて

- ・アンケート結果報告をふまえて委員意見を伺いたい。
- ・男女平等は不可能ではないか。どんな立場・場面でも「男女公平」な社会を望んでいるのではないだろうか。現状は、男女共同参画の認知度が低い現状でありメディアも正しく伝えていない。市の取り組みが今後の課題である。
調査結果が示している「技術取得セミナー」は実施に向けプランに掲載してほしい。
- ・若い世代は不満を抱えながらも平等感を持っている。中学生など子ども達への正しい教育を望む。
- ・アンケートは「男は仕事・女は家庭」をどう思うか?など価値観の押し付けではなかったか。多様な価値観を認めるといいながらも、女性の地位向上を強く前面に出すあまりに、男女共同参画は理解されず進んでいないのでは。
多様な生き方を認める社会を目指しているので、多様な意見を持つ人が集いかつ、意見交換ができる場の設定が必要であると思う。
- ・DVと児童虐待を連携した相談期間を充実させたい。アンケートの自由意見にもあったが、市民への結果報告はどのような計画があるのか。

<事務局>

結果は「ホームページに掲載すること、図書館や市役所情報コーナーで閲覧できること」を5月号広報で、周知します。

- ・親の生活が彼らの価値観だと思うので、中学生は市民結果と類似していることは当然と考える。大学生になり、視野が広がると変わってきている。

結果報告は事務局案だけではPR効果が少ないと思うので再考してほしい。

- ・企業の理解が進んでいない状況なので、市の働きかけが必要である。
「認め合い助けあう」「対等なパートナーシップ」は、プランに掲載したい。
- ・アンケートを回収できなかつた1000人/6割の人の意見が聞きたい。関心のある人だけで集っても変革は困難である。大勢をどう巻き込むか課題である。
- ・「男は仕事・女は家庭」に同感するかの問いかけは、全国調査と比較して北名古屋市は高い割合で肯定的である。希望はあるが、かなわない現実が反映された。
市への要望も仕事と家庭の両立であるが、支援策は出尽くしている。どの事業に重点をおくか精査すること。

教育について言えば、ジェンダー(社会的性別)は、幼児期に植え付けられている。

中学生/高校生への正しい教育は急務である。

行政へは、市職員研修、特に管理職研修を望む。プラン策定時に決定権者に正しい認識がなければいいものは生まれない。

相談委員への相談件数が皆無とは啓発不足である。相談したいことはあるのに相談体制・場所が伝わっていない。

- ・管理職研修の実現を。アンケートの自由回答を見ても市への期待は大きい。
“平等にはならない“という閉塞感は払拭する必要があり、市には、共同参画の正しい認識啓発を求める。

(5) その他

- ・女性の会男女共同参画委員会作成のDVDに一部誤りが認められるので早急に訂正を求める。